

Standard SR-330

3ウェイ・ポータブル スーパー

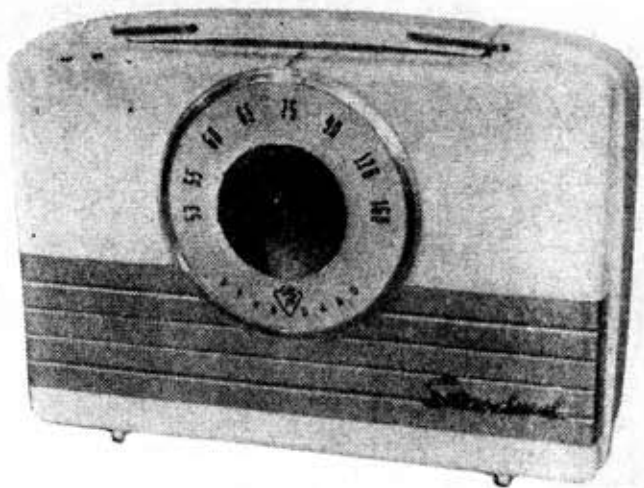
定 格

回路方式 スーパーヘテロダイン
 受信範囲 535~1605 kc
 出 力 200mW
 スピーカー 2"×2" ダイナミック・スピーカー

真空管に 1R5, 1T4, 1U5, 3S4 の標準 1.4V セラメント電池管を使っているが、感度、音質ともに仲々良い。この SR-330 の使用しているケースは、プラスチック製の寸法 210 mm×140 mm×60 mm の大きさのなかなか近代的スマートな外観で元々ワン・ウェイとして作られたのであるが、このケースの中に、3 ウェイをいれたということは、小型の非常に持ちやすい、軽いセットとして好評をばくすると思う。

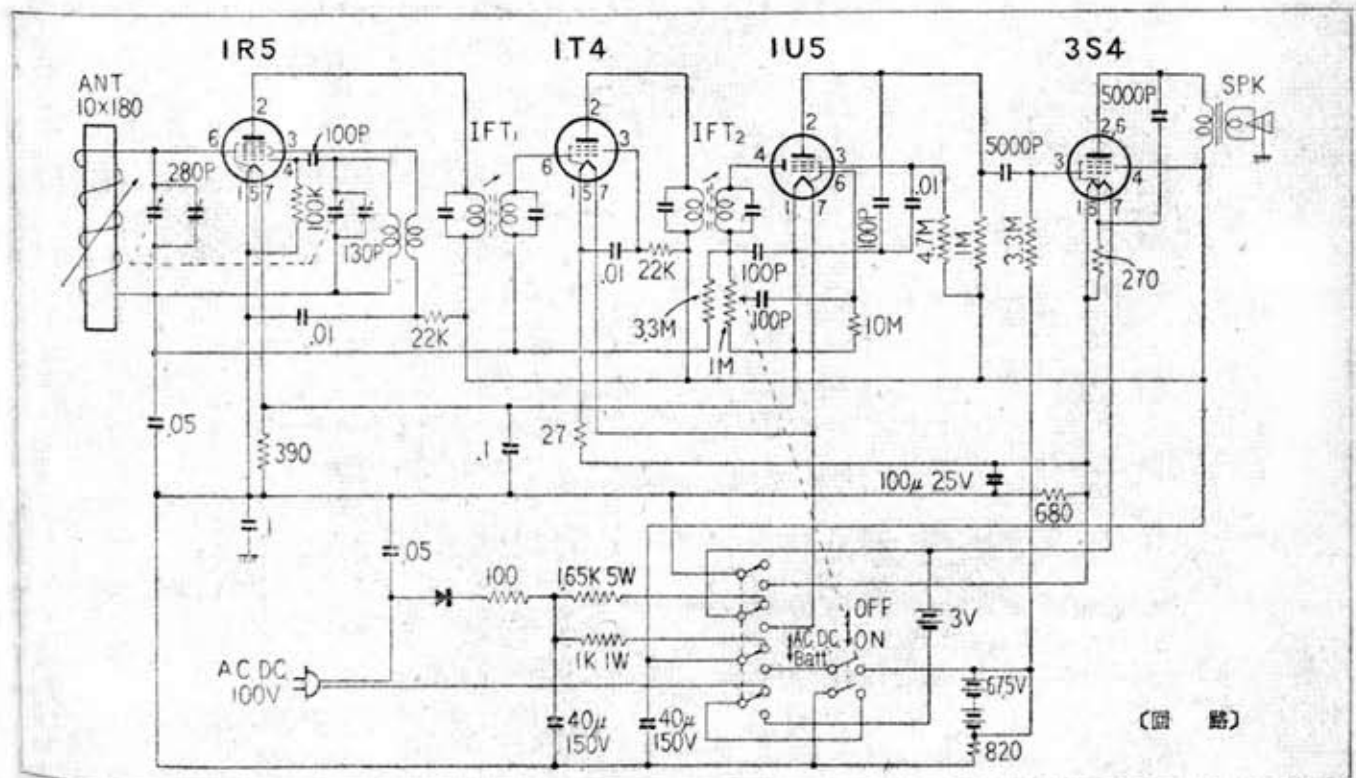
又このセットは象牙の様な明るいうちにも落ちつきのある色調をもち、前面バランスのとれた位置におかれた、大型円型ダイヤルの黄金色との調和は大変美しい。

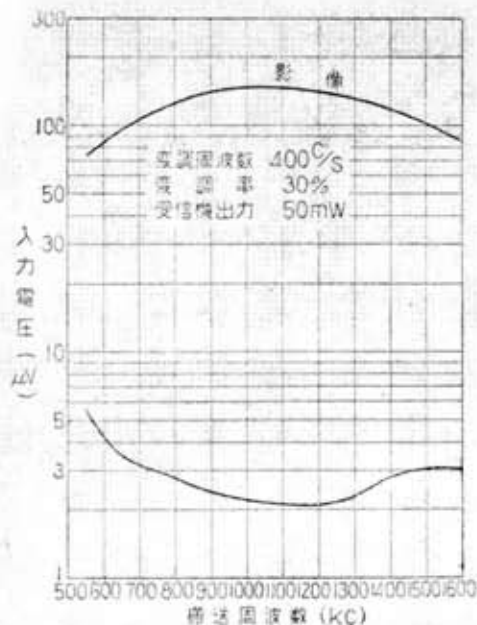
同調ダイヤルの数字は周波数を表わしており大きな円板のダイヤルは同調をたやすくしているが、その反対に時と



してスピーカーの振動音をピリピリと伝えることがある。音量調整は、ダイヤルの左右にある小さなすきまから円板状のつまみが顔をのぞかせている。これは電源スイッチを兼用している。アンテナは、指向性を殆んどもたない、そして比較的容易にハイ Q が得られる 180 mm のフェリスティックを使っている。このスティック・アンテナの上にあいている数個のすき間は、セレン整流器を始めとする放熱の為である。

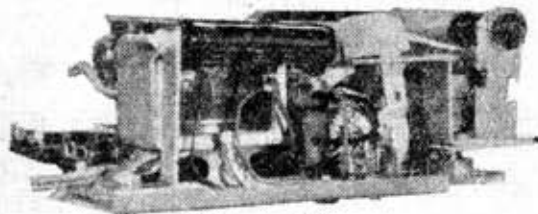
部品配置はうまくまとまっているが、どうも心配なのはセレン整流器の位置である。この位置に再検討を加えた方がよいのではないかと思う。バリコンは、小型化のためにある程度の無理から当然うける音圧によるハウリングをのぞく為に、相当嚴重にフローティングされているのは、良心的である。抵抗はモルド型を使い、コンデンサーはマイカを使用しており、一枚のベース板の上にきれいにまとまっていて、周囲からペーパーをもつてカバーされているので短絡の心配はない。





(感度特性)

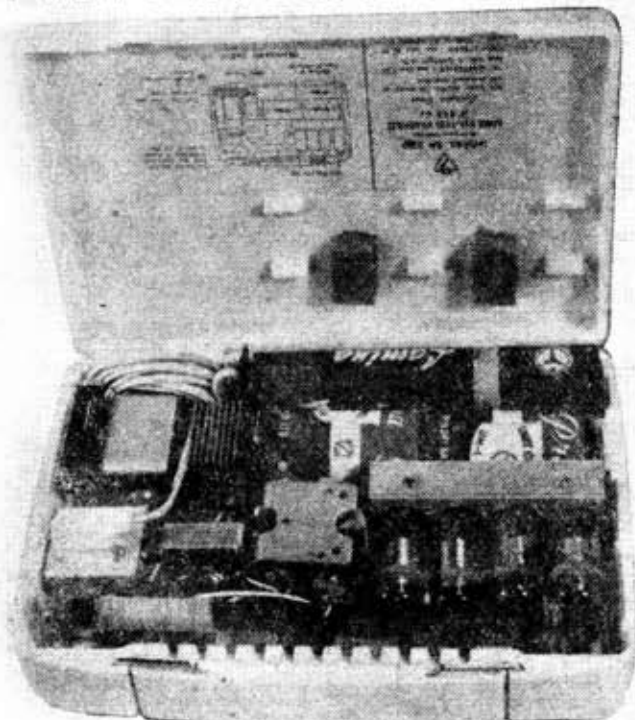
AC, DC, Batt の切り換えは、スピーカー上部についているプラグの抜き差しで、自動的に行なわれるが、スイッチの接点とか、使用されているスプリングに少々不安



(内 部)

を持つが、恐らくスタンダードとしては十分な自信があるのであろう。

電源装置としては、A 電池の時は、1.5V の UM-1 型を2個直列にして使い、連続的に使用すれば約 10 時間で



(ケース内部)

消耗するが1日1時間程度の使用では、約20日間使える。B 電池としては、BL-M 48 型を特に使っているのが、小型化に成功した一因でもあるが、約2ヵ月間保ち、A 電池を3回交換する毎に B 電池を1回交換するのが標準になっている。

エレメント接続方式もこれで十分で、ハム防止について仲々考慮をはらっている。

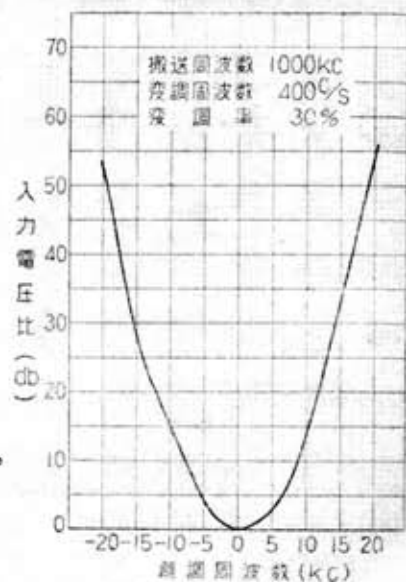
大型になる3ウェイに、この SR-330 の出現は、将来の3ウェイの小型化への一つの基準となるであろう。

なお、ポータブル・セットは外観の体裁はもち論のこと、内部の構造などいろいろと研究されて、だんだんと改良されており、最近のセットのなかには、ちよつとみると、これはすばらしい輸入品かなと思われるような製品が現われてきて、まことに御同慶の致りである。

ポータブルの利用効果は、すでに認められるところであり、近頃盛んに利用されているが、この普及と相俟つて、多くの種類の製品が市場に出されている。そのうち、現在日本のポータブル・ラジオ・キット・メーカーの会社名、銘柄、製作種目(近日発売のものも含む)及び住所を参考までに挙げてみよう。

- スタンダード無線工業株式会社(スタンダード)
3 球ポケット 東京都世田谷区野沢町2の127
- 白砂電機株式会社(シルバー)
4 球3ウェイ、4 球1ウェイ、5 球2ウェイ、3 球ポケット、
名古屋市千種区大久手町7の1
- 勝山テレビラジオ製作株式会社(エンパイア)
5 球3ウェイ、4 球1ウェイ、3 球ポケット、2 球ポケット
大阪市浪速区伝田町15
- 東海無線工業合資会社(ミリオン)
5 球3ウェイ、5 球1ウェイ 静岡市幸町34
- 日本無線研究所(パートナー)
3 球ポケット、2 球ポケット
東京都中央区日本橋兜町2の37
- 村山無線株式会社(フジ)
3 球ポケット 横浜市神奈川区白幡町118
- 原電機製作所(アルペン)
5 球2ウェイ、3 球ポケット

東京都杉並区天沼2の444



(選択度特性)